

No. 480【2021年11月5日配信】
青森市内石碑めぐり その2（担当：工藤）

こんにちは！ 室長の工藤です。

この春から市内にある石碑の所在調査をしています。浪岡地区は平成15年（2003）発刊の『浪岡町史』別巻Ⅱから確認することができます。一方、青森地区では、浅利健蔵さんという方が平成5年に出版した『碑は語る われも生きるなり』に掲載の「市内所在石碑一覧表」（以下、浅利データ）があり、284件の石碑がその所在地とともに記されています。

私の調査は、11月3日現在で284件を確認しています。数だけでいうと浅利データと同数ですが（私の方は浪岡地区分6件を含んでいます）、これと重なるのは121件に過ぎません。どれだけ石碑があるのか見当はつきませんが、地道にやっています。

石碑が多くあるのはお寺や神社、そして公園といったところですが、路傍でもみかけます。また、刻まれた碑文などから分類すると、個人の顕彰（政治家、教育者など多彩）、皇室関係（天皇巡幸や御大典記念など）、地域開発（堰や道路、橋など）、戦争（戦没者慰霊、日露戦争凱旋記念、満州事変・日支事変の戦捷記念）、学校の創立記念（50周年、100周年など）が多いようです。また、まだ2件しか確認していませんが、いわゆる「昭和の大合併」で青森市と合併した村の合併記念碑もあります。



故斎藤大衛先生報恩之碑
（大野公園）



青森市合併記念碑
（高田・熊野宮）

石碑はその地域の歴史を語る貴重な資料です。ですから、設置された「場所」にも相応の意味があります。たとえば、周囲に目立つ建物などが無い場所にひっそりと石碑が建っていることがあります。近づいてみると、そこにはかつて学校があった…ということが碑に刻まれていました。高田にある北斗高校高田分校定時制閉校記念碑であるとか、後潟にある青森工業高校後潟分校の記念碑などがそうです。



北斗高校高田分校閉校記念碑



青森工業高等学校後潟分校の碑

一方、移転を余儀なくされた石碑もあります。よく知られるところでは、油川・浄満寺にある森山弥七郎供養碑や、おなじく油川・明誓寺のジュゼッペ・ファブリのお墓があげられます。これらはともに、昭和初めの油川飛行場の建設に伴って移転したものです。ただ、ずいぶんと前の話なので、残念ながら現在では「浄満寺は森山を供養するために建てられた」という誤解も一部で生じてしまっています。



移転前の森山弥七郎供養碑
（『油川町誌』大正8年）

このほかにも、浅利データと食い違う石碑が散見し、これらも移転の可能性があるのではないかと見えています。

冒頭にも記したように、私はまだ市内の石碑の所在地を十分に把握してはおりません。所在情報は歓迎ですので、よろしくお願いたします。